

○「脳科学研究を基盤とした発達障害の行動科学研究プロジェクト」とは？

これまでの「発達障害研究」は、主に障害児教育の中で行われてきましたが、現在は、脳科学による生物学的理解が可能な時代を迎えました。

本事業は、発達障害の脳科学による最先端研究を行うとともに、その研究成果を環境も含めた支援という型に結び付け、またそれらを担う人材を育成するものです。

○プロジェクトの「目的と目標」

自閉症を含む発達障害は、医学的に注目されているだけでなく、少子化の現代社会にも大きな問題です。教育心理学が研究の中心であった発達障害に、最新の脳科学の成果を取り入れることにより、科学的根拠に基づく障害児支援を行う体制を構築することを目的としています。

この事業は、「行動科学」に基づく研究科の枠を超えた学際的研究、「教育学」の支援法への取り組み、さらには「工学」を含めた環境の構築などといった融合的に展開する事業であり、将来的には「脳とこころの研究センター」の設立を目標としています。

具体的には、発達障害の医学・生物学、行動科学、心理学的研究を行い、発達障害の基礎的知見を得るだけでなく、社会への出口として、大学病院における専門外来の充実、教育現場での障害児支援、障害者の立場にたった環境提供、さらには、研究者、医師、看護師、作業療法士、臨床心理士、患者およびその家族のネットワーク作りを目指しています。

文部科学省
「脳科学研究を基盤とした発達障害の行動科学研究プロジェクト」

特別公開講演会

(第5回「発達脳」レクチャー)

共催：広島児童青年精神医学研究会（はすかつぶの会）

司会：内匠透 広島大学大学院医歯薬保健学研究院 客員教授

特別講演：**神尾 陽子** 博士

独立行政法人国立精神・神経医療研究センター
精神保健研究所児童・思春期精神保健研究部 部長

「自閉症スペクトラムの早期発見から
長期的視点に立った支援へ」

平成26年11月12日（水）

午後7—8時

広島大学医学部 広仁会館（1階）



神経・精神病態制御学 内匠 透

takumi@hiroshima-u.ac.jp

小児科学 梶梅 あい子